

文化芸術・スポーツ・まちの
にぎわいに関する特別委員会
令和7年12月8日
区民生活部文化・交流課
保健福祉部障害者施策課

「手話のまち 東京国際ろう芸術祭」の開催結果について

一般社団法人日本ろう芸術協会及び文化庁との共催により実施した「東京国際ろう芸術祭（以下、「芸術祭」という）」の開催結果について、以下のとおり報告します。

1 目的

東京2025デフリンピックに合わせて、手話、ろう文化、ろう芸術の魅力を広く発信していくことを目的に開催し、地域における手話の定着、文化芸術におけるアクセシビリティの向上を目指す。

2 開催概要

- 日 程 令和7年11月6日（木）～9日（日）
○会 場 杉並芸術会館（杉並区高円寺北2-1-2）ほか6か所
○来場者 約15,000人（4日間合計。21か国以上から来日）

3 主な公演

（1）演劇・パフォーマンス・映画など

ろう者による手話を交えた演劇やパフォーマンス、ろう者に焦点を当てたドキュメンタリー映画の上映、手話を取り入れたイマーシブシアター※の実施など、計48プログラムを実施した。

（2）体験・ワークショップ・展示

ICTを活用した手話の体験、手話通訳をつけたワークショップの開催、視覚的な表現を取り入れた阿波おどりの披露、商店街とのコラボレーションイベント等を開催した。

※従来の観客が客席から舞台を鑑賞するのとは異なり、会場全体が舞台となり、観客は自由に動き回りながら登場人物と交流し、自らの行動や選択によって物語の一部を体験する演劇形態。

4 アクセシビリティ対応

全ての公演で日本手話、国際手話、字幕など情報保障を行ったとともに、一部プログラムにおいては、音声ガイドによる音声配信を行った。

5 参加者の声

- ・このイベントに出演者として参加でき、とても光栄に思っている。
- ・初めての試みで苦労もあったが、出演者としても参加者としても楽しめた。

- ・手話を使って会話する人の方が多い環境に驚いた。覚えて使ってみたい。
- ・外国人もたくさん来場されていて、国際的なイベントだと感じた。

6 今後の展開

- ・障害の有無や身体的な特徴に関わらず、誰もが、それぞれの方法で文化芸術を鑑賞できるよう、字幕・音声ガイド等の鑑賞サポートなど、文化芸術におけるアクセシビリティの向上に取り組んでいく。
- ・ろう文化、ろう芸術の継続的な発信を通して、手話の認知の向上を行い、ろう者・難聴者の社会参加につなげていく。



手話による会話が飛び交う 1階ロビー



手話で買物ができる「手話の市」



商店街で配布した「手話カードラリー」



連携会場でのろう者によるパフォーマンス